

市民向けアンケート調査結果

実施期間：令和7年8月25日（月）～9月26日（金）

実施方法：アンケートフォーム（市ホームページ内）／紙（カフェドットコムや公民館ほか公共施設）

回答者数：247名（WEB 198名／紙 49名）

※紙の回答において、1つまで回答としているところ、複数回答しているものについて、その設問に限り無効としています。

ご本人のことについて

問1 性別

回答

1つまで

	WEB	紙	合計	割合
男性	55	11	66	26.7%
女性	139	36	175	70.9%
どちらでもない	0	0	0	0.0%
答えたくない	4	0	4	1.6%
未回答	0	2	2	0.8%
合計	198	49	247	100.0%

問2 年代

回答

1つまで

	WEB	紙	合計	割合
17歳以下	2	0	2	0.8%
18～39歳	27	1	28	11.3%
40～64歳	137	10	147	59.5%
65歳以上	32	38	70	28.3%
未回答	0	0	0	0.0%
合計	198	49	247	100.0%

問3 茅ヶ崎市との関係

回答

1つまで

	WEB	紙	合計	割合
在住	165	37	202	83.5%
在勤	14	1	15	6.2%
在学	0	0	0	0.0%
家族・親族（障がい児者）が在住	12	2	14	5.8%
知人（障がい児者）が在住	3	0	3	1.2%
その他	4	3	7	2.9%
未回答	0	1	1	0.4%
合計	198	44	242	100.0%

障がいのある方との関わり、障がいに関することについて

問4 知っている、聞いたことがある言葉

回答

あてはまるもの全て

	WEB	紙	合計	割合
インクルーシブ教育	123	22	145	58.7%
ヤングケアラー	177	40	217	87.9%
障がい者雇用	188	45	233	94.3%
ちがさき障がい者支援アプリ	91	13	104	42.1%
障害者週間	84	20	104	42.1%
医療的ケア	104	21	125	50.6%
成年後見制度	167	43	210	85.0%
ともに生きる(ともに生きる社会かながわ憲章)	107	25	132	53.4%
ノーマライゼーション	85	13	98	39.7%
自閉スペクトラム症(ASD)・学習障がい(LD)・ 注意欠陥多動性障がい(ADHD)	179	33	212	85.8%
パラスポーツ	167	45	212	85.8%
避難行動要支援者支援制度	91	21	112	45.3%
知っている(聞いたことがある)ものはない	4	1	5	2.0%
合計	904	202	1,106	—

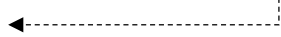
問5 障がいのある方との接する機会(1年以内)

回答

1つまで

	WEB	紙	合計	割合
接したことがある	170	36	206	83.4%
接したことがない	28	9	37	15.0%
未回答	0	4	4	1.6%
合計	198	49	247	100.0%

問5-1 誰と接したか



回答

あてはまるもの全て

	WEB	紙	合計	割合
家族・親族	64	7	71	34.5%
友人	33	8	41	19.9%
一緒に働いている人	39	2	41	19.9%
同じ学校の人	7	0	7	3.4%
近所の人	21	8	29	14.1%
趣味などの仲間	26	5	31	15.0%
(お店等の)スタッフ	19	11	30	14.6%
その他	59	12	71	34.5%
未回答	27	0	27	13.1%
合計	295	53	348	—

問6 障がいに関することを見聞きした媒体(1年以内)

回答

あてはまるもの全て

	WEB	紙	合計	割合
公共交通機関(駅、電車内、バス内)の掲示物	93	21	114	46.2%
テレビ番組、CM	131	36	167	67.6%
市ホームページ	79	20	99	40.1%
ちがさき障がい者支援アプリ	0	10	10	4.0%
LINE(ライン)	41	2	43	17.4%
X(旧Twitter(ツイッター))	41	2	43	17.4%
Facebook(フェイスブック)	25	2	27	10.9%
Instagram(インスタグラム)	57	6	63	25.5%
TikTok(ティクトック)	13	2	15	6.1%
YouTube(ユーチューブ)	55	9	64	25.9%
広報ちがさき(市広報紙)	92	29	121	49.0%
新聞	41	22	63	25.5%
知人・友人	74	23	97	39.3%
見聞きする機会はなかった	5	1	6	2.4%
その他	24	3	27	10.9%
合計	304	89	393	—

問7 「津久井やまゆり園」の事件認知度

回答

1つまで

	WEB	紙	合計	割合
知っている	189	46	235	95.1%
聞いたことはある(内容は知らない)	6	3	9	3.6%
聞いたことがない	3	0	3	1.2%
合計	198	49	247	100.0%

合理的配慮について

問8 障がいのある方に対する差別、偏見

回答

1つまで

	WEB	紙	合計	割合
あると思う	157	16	173	70.0%
少しはあると思う	33	20	53	21.5%
ないと思う	3	6	9	3.6%
分からない	5	1	6	2.4%
未回答	0	6	6	2.4%
合計	198	49	247	100.0%

問8-1 どのような場面か

回答

あてはまるもの全て

	WEB	紙	合計	割合
雇用、就業	158	33	191	84.5%
教育 (学校生活)	157	27	184	81.4%
公共交通機関 (バス、鉄道等を利用する時)	115	21	136	60.2%
商品販売等サービス (商店、飲食店等を利用する時)	80	8	88	38.9%
不動産 (賃貸契約時等)	90	19	109	48.2%
行政機関 (市役所の窓口等を利用する時)	49	6	55	24.3%
文化、スポーツ (コンサートスポーツ関連施設等を利用する時)	72	15	87	38.5%
医療福祉 (病院、障害者施設等を利用する時)	85	10	95	42.0%
家族、親族、友人とのやりとりの時	65	9	74	32.7%
分からない	9	2	11	4.9%
その他	11	1	12	5.3%
未回答	8	1	9	4.0%
合計	899	152	1,051	—

問9 差別解消法の認知度

回答

1つまで

	WEB	紙	合計	割合
知っている	89	15	104	42.1%
聞いたことはある(内容は知らない)	41	18	59	23.9%
聞いたことがない	68	13	81	32.8%
未回答	0	3	3	1.2%
合計	198	49	247	100.0%

問10 合理的配慮の認知度

回答

1つまで

	WEB	紙	合計	割合
知っている	108	17	125	50.6%
聞いたことはある(内容は知らない)	44	12	56	22.7%
聞いたことがない	46	17	63	25.5%
未回答	0	3	3	1.2%
合計	198	49	247	100.0%

問11 どうすれば合理的配慮が浸透すると思うか

回答

1つまで

	WEB	紙	合計	割合
宣伝媒体(広報ちがさき、新聞、テレビ、インターネット、SNS等)を使用した周知	116	19	135	57.9%
行政から民間事業者向けの説明会の実施	45	9	54	23.2%
事業者も事情があるので特別な配慮をする必要はない	4	1	5	2.1%
その他	33	1	34	14.6%
未回答	0	5	5	2.1%
合計	198	35	233	100.0%

問12 障がいのある方と一緒に働くこと

回答

1つまで

	WEB	紙	合計	割合
特に何とも思わない	47	16	63	26.5%
本人が仕事をこなせば問題ない	57	11	68	28.6%
フォローする人がつけばよい	13	5	18	7.6%
障がいの程度や内容による	66	5	71	29.8%
できれば働きたくない	1	0	1	0.4%
その他	14	1	15	6.3%
未回答	0	2	2	0.8%
合計	198	40	238	100.0%

問13 ヘルプマークの認知度

回答

1つまで

	WEB	紙	合計	割合
知っている	176	35	211	85.4%
見たことはある	8	7	15	6.1%
知らない	14	3	17	6.9%
未回答	0	4	4	1.6%
合計	198	49	247	100.0%



問13-1 着用者への声掛け、手助け

回答

1つまで

	WEB	紙	合計	割合
したことがある →内容は別紙資料	60	17	77	32.4%
したことがない	120	22	142	59.7%
未回答	18	1	19	8.0%
合計	198	40	238	100.0%



問13-2 手助け、声掛けしにくい理由

回答

あてはまるもの全て

	WEB	紙	合計	割合
相手がどのように反応するか分からないので不安	28	15	43	30.3%
おせっかいのような気がする	12	5	17	12.0%
相手や周囲に気恥ずかしさを感じるから	0	4	4	2.8%
適切に対応できそうもないから (何をしたいか分からない)	18	8	26	18.3%
手伝えることは障がいのある方のためにならないから	0	0	0	0.0%
関りたくないから	2	0	2	1.4%
専門の人や関係者にまかせた方がよいと思うから	3	3	6	4.2%
その他	57	9	66	46.5%
未回答	5	2	7	4.9%
合計	125	46	171	—

問14 障害者虐待防止法の認知度

回答

1つまで

	WEB	紙	合計	割合
知っている	101	18	119	48.2%
聞いたことはある(内容は知らない)	43	20	63	25.5%
聞いたことがない	54	8	62	25.1%
未回答	0	3	3	1.2%
合計	198	49	247	100.0%

問15 市虐待防止センターへの通報義務の認知度

回答

1つまで

	WEB	紙	合計	割合
知っている	70	10	80	32.4%
聞いたことはある(内容は知らない)	47	20	67	27.1%
聞いたことがない	81	14	95	38.5%
未回答	0	5	5	2.0%
合計	198	49	247	100.0%

問16 虐待を確認した際に市虐待防止センターへ通報するか

回答

1つまで

	WEB	紙	合計	割合
少しでも疑いがあれば「通報する」	61	18	79	32.0%
周囲の人等に相談してから「通報する」	105	22	127	51.4%
虐待かどうか判断が難しいので「通報しない」	11	3	14	5.7%
関わりたくないので「通報しない」	7	0	7	2.8%
考えたことがないので分からない	6	2	8	3.2%
その他	8	1	9	3.6%
未回答	0	3	3	1.2%
合計	198	49	247	100.0%

問17 ともに生きる社会を実現するために必要なこと

回答

3つまで

	WEB	紙	合計	割合
幼少期から障がいのある児童や障がいのある方と自然に関わることのできる環境	159	35	194	78.5%
学校における障がいに関する研修	97	10	107	43.3%
障がいのある方が共に参加できる活動やイベントの実施	78	14	92	37.2%
障がいのある方を支える地域での支援	75	15	90	36.4%
障がいのある方を支える福祉サービスの充実や支援者の育成	85	19	104	42.1%
障がいのある方が働きやすい環境	102	18	120	48.6%
障がいのある方を支える家族等への支援	90	16	106	42.9%
分からない	4	1	5	2.0%
その他	12	2	14	5.7%
未回答	0	4	4	1.6%
合計	702	134	836	—

問18 回答のきっかけ

回答

1つまで

	WEB	紙	合計	割合
自分に障がいがあるから	36	1	37	16.9%
親族に障がいのある方がいるから	43	1	44	20.1%
過去に障がいのある方と接したことがあるから	15	6	21	9.6%
障がい福祉に関する仕事をしているから	24	1	25	11.4%
障がい福祉について勉強した事がある	10	0	10	4.6%
意見を障がい福祉施策に役立てたいから	26	2	28	12.8%
障がい福祉施策について興味があるから	15	1	16	7.3%
時間があつたから	13	8	21	9.6%
その他	16	1	17	7.8%
未回答	0	0	0	0.0%
合計	198	21	219	100.0%

問19 アンケートを知った媒体

回答

1つまで

	WEB	紙	合計	割合
広報ちがさき	21	5	26	10.5%
ホームページ	14	0	14	5.7%
ちがさき障がい者支援アプリ	20	0	20	8.1%
LINE(ライン)	57	0	57	23.1%
X(旧Twitter(ツイッター))	7	0	7	2.8%
デジタルサイネージ (市役所エレベータ横にある電子掲示板等)	1	1	2	0.8%
公共施設に掲示されていたポスター	11	0	11	4.5%
広報板	3	0	3	1.2%
その他	64	38	102	41.3%
未回答	0	5	5	2.0%
合計	198	49	247	100.0%

問20 設問の数

回答

1つまで

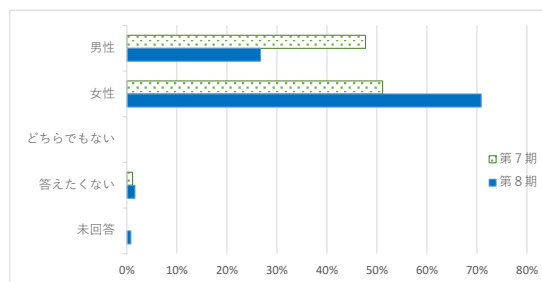
	WEB	紙	合計	割合
多い	33	3	36	14.6%
適当	155	41	196	79.4%
少ない	10	0	10	4.0%
未回答	0	5	5	2.0%
合計	198	49	247	100.0%

ご本人のことについて

問1 性別

回答 1つまで

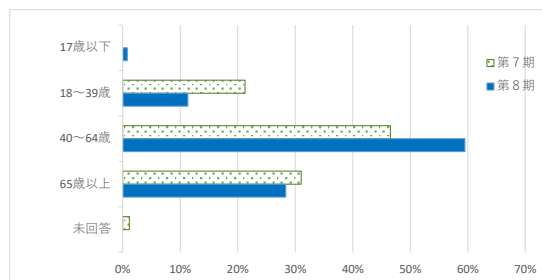
	合計		割合	
	第7期	第8期	第7期	第8期
男性	83	66	47.7%	26.7%
女性	89	175	51.1%	70.9%
どちらでもない	0	0	0.0%	0.0%
答えたくない	2	4	1.1%	1.6%
未回答	0	2	0.0%	0.8%
合計	174	247	100.0%	100.0%



問2 年代

回答 1つまで

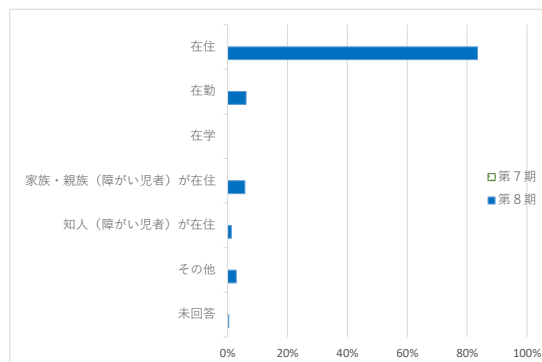
	合計		割合	
	第7期	第8期	第7期	第8期
17歳以下	0	2	0.0%	0.8%
18～39歳	37	28	21.3%	11.3%
40～64歳	81	147	46.6%	59.5%
65歳以上	54	70	31.0%	28.3%
未回答	2	0	1.1%	0.0%
合計	174	247	100.0%	100.0%



問3 茅ヶ崎市との関係

回答 1つまで

	合計		割合	
	第7期	第8期	第7期	第8期
在住	—	202	—	83.5%
在勤	—	15	—	6.2%
在学	—	0	—	0.0%
家族・親族（障がい児者）が在住	—	14	—	5.8%
知人（障がい児者）が在住	—	3	—	1.2%
その他	—	7	—	2.9%
未回答	—	1	—	0.4%
合計	—	242	—	100.0%



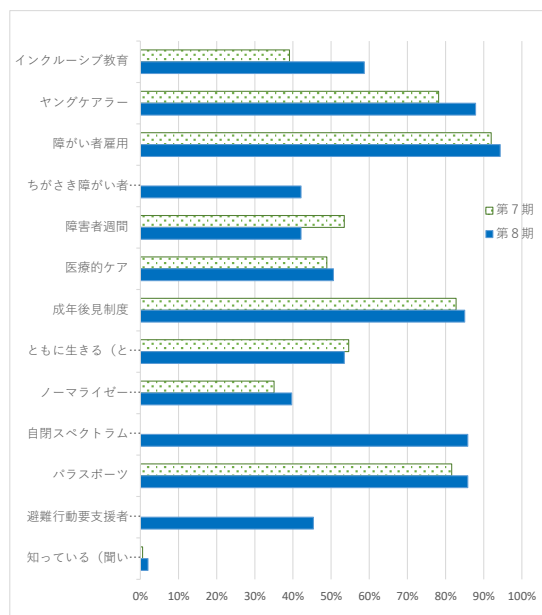
障がいのある方との関わり、障がいに関することについて

問4 知っている、聞いたことがある言葉

回答

あてはまるもの全て

	合計		割合	
	第7期	第8期	第7期	第8期
インクルーシブ教育	68	145	39.1%	58.7%
ヤングケアラー	136	217	78.2%	87.9%
障がい者雇用	160	233	92.0%	94.3%
ちがさき障がい者支援アプリ	—	104	—	42.1%
障害者週間	93	104	53.4%	42.1%
医療的ケア	85	125	48.9%	50.6%
成年後見制度	144	210	82.8%	85.0%
ともに生きる（ともに生きる社会かながわ憲章）	95	132	54.6%	53.4%
ノーマライゼーション	61	98	35.1%	39.7%
自閉スペクトラム症(ASD)・学習障がい(LD)・ 注意欠陥多動性障がい(ADHD)	—	212	—	85.8%
パラスポーツ	142	212	81.6%	85.8%
避難行動要支援者支援制度	—	112	—	45.3%
知っている（聞いたことがある）ものはない	1	5	0.6%	2.0%
合計	985	1,106	—	—

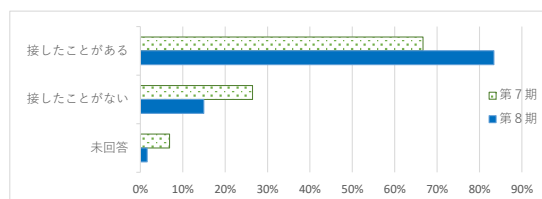


問5 障がいのある方との接する機会（1年以内）

回答

1つまで

	合計		割合	
	第7期	第8期	第7期	第8期
接したことがある	116	206	66.7%	83.4%
接したことがない	46	37	26.4%	15.0%
未回答	12	4	6.9%	1.6%
合計	174	247	100.0%	100.0%

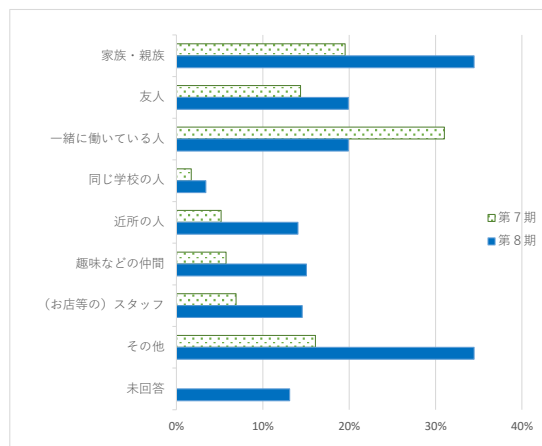


問5-1 誰と接したか

回答

あてはまるもの全て

	合計		割合	
	第7期	第8期	第7期	第8期
家族・親族	34	71	19.5%	34.5%
友人	25	41	14.4%	19.9%
一緒に働いている人	54	41	31.0%	19.9%
同じ学校の人	3	7	1.7%	3.4%
近所の人	9	29	5.2%	14.1%
趣味などの仲間	10	31	5.7%	15.0%
（お店等の）スタッフ	12	30	6.9%	14.6%
その他	28	71	16.1%	34.5%
未回答	0	27	0.0%	13.1%
合計	175	348	—	—

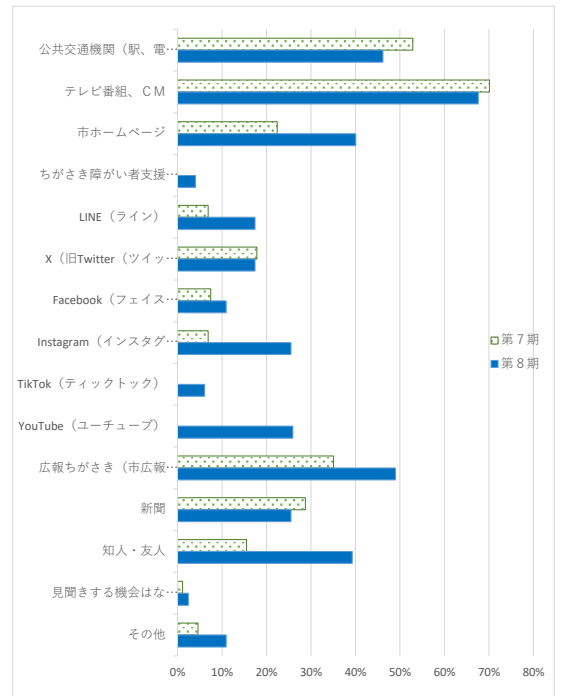


問6 障がいに関することを見聞きした媒体(1年以内)

回答

あてはまるもの全て

	合計		割合	
	第7期	第8期	第7期	第8期
公共交通機関(駅、電車内、バス内)の掲示物	92	114	52.9%	46.2%
テレビ番組、CM	122	167	70.1%	67.6%
市ホームページ	39	99	22.4%	40.1%
ちがさき障がい者支援アプリ	—	10	—	4.0%
LINE(ライン)	12	43	6.9%	17.4%
X(旧Twitter(ツイッター))	31	43	17.8%	17.4%
Facebook(フェイスブック)	13	27	7.5%	10.9%
Instagram(インスタグラム)	12	63	6.9%	25.5%
TikTok(ティクトック)	—	15	—	6.1%
YouTube(ユーチューブ)	—	64	—	25.9%
広報ちがさき(市広報紙)	61	121	35.1%	49.0%
新聞	50	63	28.7%	25.5%
知人・友人	27	97	15.5%	39.3%
見聞きする機会はなかった	2	6	1.1%	2.4%
その他	8	27	4.6%	10.9%
合計	469	959	—	—

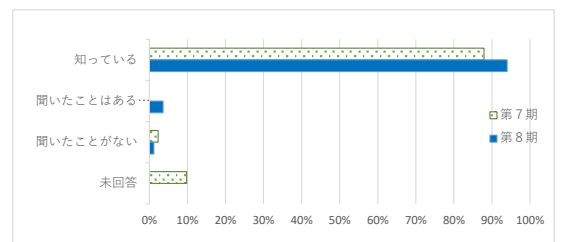


問7 「津久井やまゆり園」の事件認知度

回答

1つまで

	合計		割合	
	第7期	第8期	第7期	第8期
知っている	153	235	87.9%	94.0%
聞いたことはある(内容は知らない)	0	9	0.0%	3.6%
聞いたことがない	4	3	2.3%	1.2%
未回答	17	0	9.8%	0.0%
合計	174	250	100.0%	100.0%

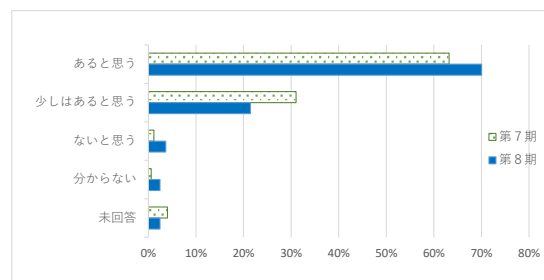


合理的配慮について

問8 障がいのある方に対する差別、偏見

回答 1つまで

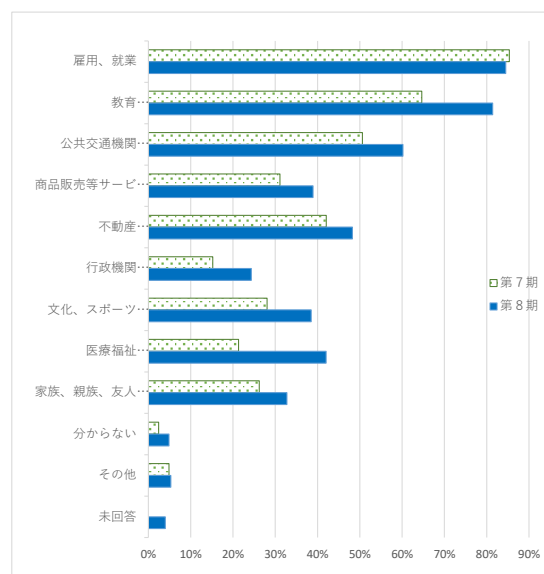
	合計		割合	
	第7期	第8期	第7期	第8期
あると思う	110	173	63.2%	70.0%
少しはあると思う	54	53	31.0%	21.5%
ないと思う	2	9	1.1%	3.6%
分からない	1	6	0.6%	2.4%
未回答	7	6	4.0%	2.4%
合計	174	247	100.0%	100.0%



問8-1 どのような場面か

回答 あてはまるもの全て

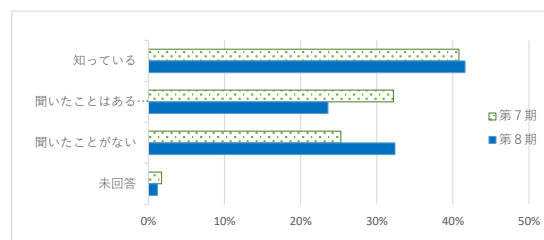
	合計		割合	
	第7期	第8期	第7期	第8期
雇用、就業	140	191	85.4%	84.5%
教育 (学校生活)	106	184	64.6%	81.4%
公共交通機関 (バス、鉄道等を利用する時)	83	136	50.6%	60.2%
商品販売等サービス (商店、飲食店等を利用する時)	51	88	31.1%	38.9%
不動産 (賃貸契約時等)	69	109	42.1%	48.2%
行政機関 (市役所の窓口等を利用する時)	25	55	15.2%	24.3%
文化、スポーツ (コンサートスポーツ関連施設等を利用する時)	46	87	28.0%	38.5%
医療福祉 (病院、障害者施設等を利用する時)	35	95	21.3%	42.0%
家族、親族、友人とのやりとりの時	43	74	26.2%	32.7%
分からない	4	11	2.4%	4.9%
その他	8	12	4.9%	5.3%
未回答	0	9	0.0%	4.0%
合計	610	1,051	-	-



問9 差別解消法の認知度

回答 1つまで

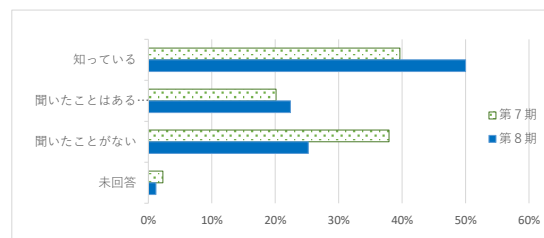
	合計		割合	
	第7期	第8期	第7期	第8期
知っている	71	104	40.8%	41.6%
聞いたことはある (内容は知らない)	56	59	32.2%	23.6%
聞いたことがない	44	81	25.3%	32.4%
未回答	3	3	1.7%	1.2%
合計	174	250	100.0%	100.0%



問10 合理的配慮の認知度

回答 1つまで

	合計		割合	
	第7期	第8期	第7期	第8期
知っている	69	125	39.7%	50.0%
聞いたことはある (内容は知らない)	35	56	20.1%	22.4%
聞いたことがない	66	63	37.9%	25.2%
未回答	4	3	2.3%	1.2%
合計	174	250	100.0%	100.0%

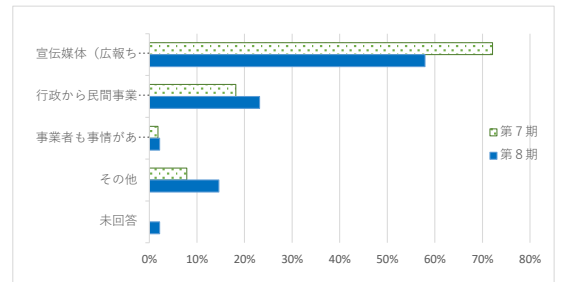


問11 どうすれば合理的配慮が浸透すると思うか

回答

1つまで

	合計		割合	
	第7期	第8期	第7期	第8期
宣伝媒体（広報がさき、新聞、テレビ、インターネット、SNS等）を使用した周知	119	135	72.1%	57.9%
行政から民間事業者向けの説明会の実施	30	54	18.2%	23.2%
事業者も事情があるので特別な配慮をする必要はない	3	5	1.8%	2.1%
その他	13	34	7.9%	14.6%
未回答	0	5	0.0%	2.1%
合計	165	233	100.0%	100.0%

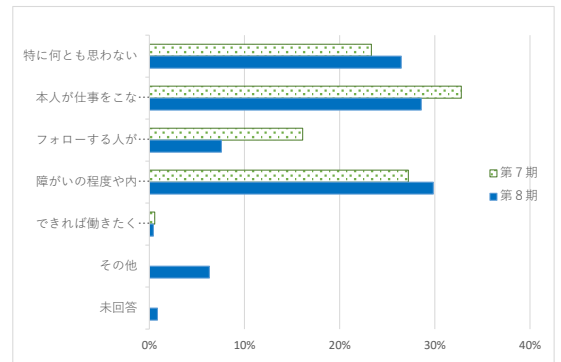


問12 障がいのある方と一緒に働くこと

回答

1つまで

	合計		割合	
	第7期	第8期	第7期	第8期
特に何とも思わない	42	63	23.3%	26.5%
本人が仕事をこなせば問題ない	59	68	32.8%	28.6%
フォローする人がつければよい	29	18	16.1%	7.6%
障がいの程度や内容による	49	71	27.2%	29.8%
できれば働きたくない	1	1	0.6%	0.4%
その他	0	15	0.0%	6.3%
未回答	0	2	0.0%	0.8%
合計	180	238	100.0%	100.0%

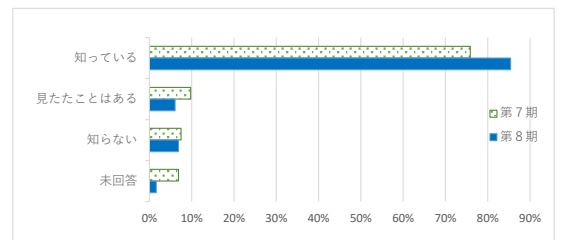


問13 ヘルプマークの認知度

回答

1つまで

	合計		割合	
	第7期	第8期	第7期	第8期
知っている	132	211	75.9%	85.4%
見たことはある	17	15	9.8%	6.1%
知らない	13	17	7.5%	6.9%
未回答	12	4	6.9%	1.6%
合計	174	247	100.0%	100.0%

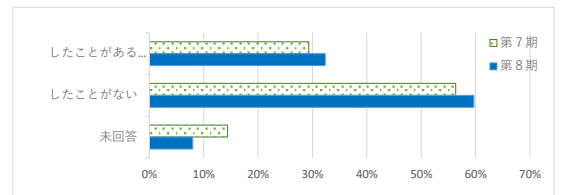


問13-1 着用者への声掛け、手助け

回答

1つまで

	合計		割合	
	第7期	第8期	第7期	第8期
したことがある → 内容は別紙資料	51	77	29.3%	32.4%
したことがない	98	142	56.3%	59.7%
未回答	25	19	14.4%	8.0%
合計	174	238	100.0%	100.0%

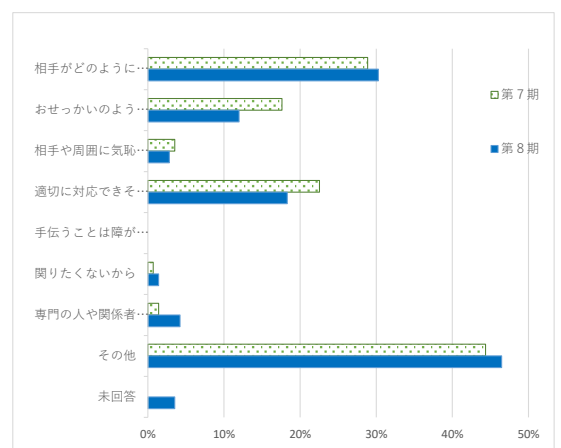


問13-2 手助け、声掛けしにくい理由

回答

あてはまるもの全て

	合計		割合	
	第7期	第8期	第7期	第8期
相手がどのように反応するか分からないので不安	41	43	28.9%	30.3%
おせっかいのような気がする	25	17	17.6%	12.0%
相手や周囲に気恥ずかしさを感じるから	5	4	3.5%	2.8%
適切に対応できそうもないから（何をすればいいかわからない）	32	26	22.5%	18.3%
手伝えることは障がいのある方のためにならないから	0	0	0.0%	0.0%
関りたくないから	1	2	0.7%	1.4%
専門の人や関係者にまかせた方がよいと思うから	2	6	1.4%	4.2%
その他	63	66	44.4%	46.5%
未回答	0	5	0.0%	3.5%
合計	169	244	-	-

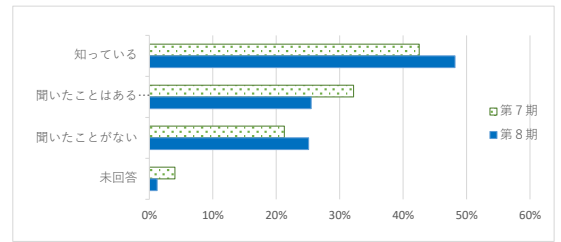


問14 障害者虐待防止法の認知度

回答

1つまで

	合計		割合	
	第7期	第8期	第7期	第8期
知っている	74	119	42.5%	48.2%
聞いたことはある(内容は知らない)	56	63	32.2%	25.5%
聞いたことがない	37	62	21.3%	25.1%
未回答	7	3	4.0%	1.2%
合計	174	247	100.0%	100.0%

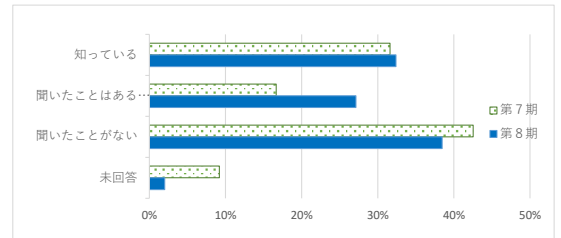


問15 市虐待防止センターへの通報義務の認知度

回答

1つまで

	合計		割合	
	第7期	第8期	第7期	第8期
知っている	55	80	31.6%	32.4%
聞いたことはある(内容は知らない)	29	67	16.7%	27.1%
聞いたことがない	74	95	42.5%	38.5%
未回答	16	5	9.2%	2.0%
合計	174	247	100.0%	100.0%

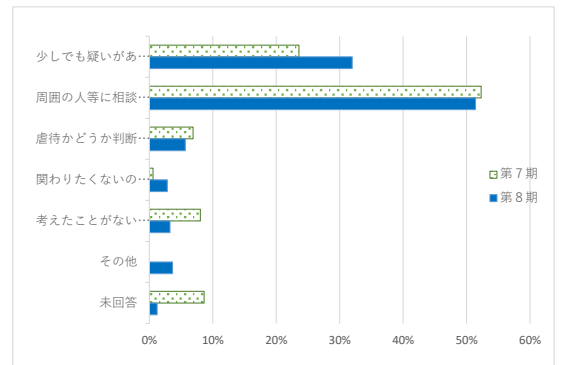


問16 虐待を確認した際に市虐待防止センターへ通報するか

回答

1つまで

	合計		割合	
	第7期	第8期	第7期	第8期
少しでも疑いがあれば「通報する」	41	79	23.6%	32.0%
周囲の人等に相談してから「通報する」	91	127	52.3%	51.4%
虐待かどうか判断が難しいので「通報しない」	12	14	6.9%	5.7%
関わりたくないのので「通報しない」	1	7	0.6%	2.8%
考えたことがないので分からない	14	8	8.0%	3.2%
その他	0	9	0.0%	3.6%
未回答	15	3	8.6%	1.2%
合計	174	247	100.0%	100.0%

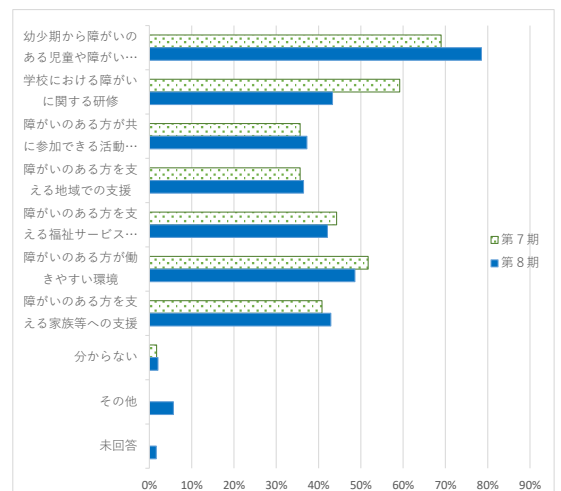


問17 ともに生きる社会を実現するために必要なこと

回答

3つまで

	合計		割合	
	第7期	第8期	第7期	第8期
幼少期から障がいのある児童や障がいのある方と自然に関わることで育つ環境	120	194	69.0%	78.5%
学校における障がいに関する研修	103	107	59.2%	43.3%
障がいのある方が共に参加できる活動やイベントの実施	62	92	35.6%	37.2%
障がいのある方を支える地域での支援	62	90	35.6%	36.4%
障がいのある方を支える福祉サービスの充実や支援者の育成	77	104	44.3%	42.1%
障がいのある方が働きやすい環境	90	120	51.7%	48.6%
障がいのある方を支える家族等への支援	71	106	40.8%	42.9%
分からない	3	5	1.7%	2.0%
その他	0	14	0.0%	5.7%
未回答	0	4	0.0%	1.6%
合計	588	836	-	-

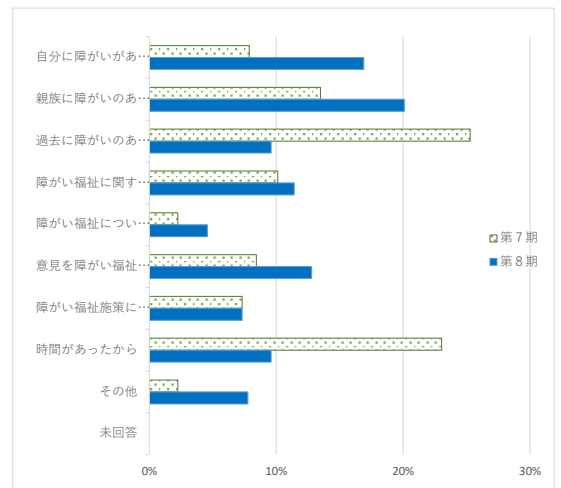


問18 回答のきっかけ

回答

1つまで

	合計		割合	
	第7期	第8期	第7期	第8期
自分に障がいがあるから	14	37	7.9%	16.9%
親族に障がいのある方がいるから	24	44	13.5%	20.1%
過去に障がいのある方と接したことがあるから	45	21	25.3%	9.6%
障がい福祉に関する仕事をしているから	18	25	10.1%	11.4%
障がい福祉について勉強した事がある	4	10	2.2%	4.6%
意見を障がい福祉施策に役立てたいから	15	28	8.4%	12.8%
障がい福祉施策について興味があるから	13	16	7.3%	7.3%
時間があったから	41	21	23.0%	9.6%
その他	4	17	2.2%	7.8%
未回答	0	0	0.0%	0.0%
合計	178	219	100.0%	100.0%

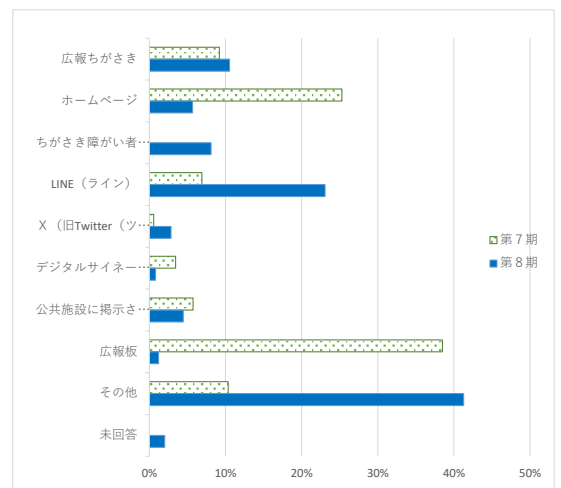


問19 アンケートを知った媒体

回答

1つまで

	合計		割合	
	第7期	第8期	第7期	第8期
広報ちがさき	16	26	9.2%	10.5%
ホームページ	44	14	25.3%	5.7%
ちがさき障がい者支援アプリ	—	20	—	8.1%
LINE (ライン)	12	57	6.9%	23.1%
X (旧Twitter (ツイッター))	1	7	0.6%	2.8%
デジタルサイネージ (市役所エレベータ横にある電子掲示板等)	6	2	3.4%	0.8%
公共施設に掲示されていたポスター	10	11	5.7%	4.5%
広報板	67	3	38.5%	1.2%
その他	18	102	10.3%	41.3%
未回答	0	5	0.0%	2.0%
合計	174	247	100.0%	100.0%

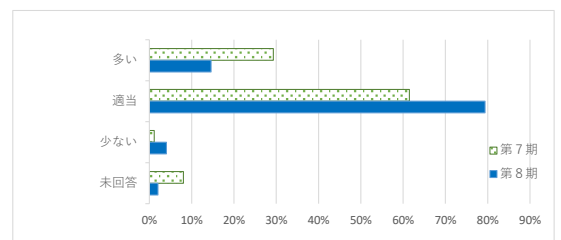


問20 設問の数

回答

1つまで

	合計		割合	
	第7期	第8期	第7期	第8期
多い	51	36	29.3%	14.6%
適当	107	196	61.5%	79.4%
少ない	2	10	1.1%	4.0%
未回答	14	5	8.0%	2.0%
合計	174	247	100.0%	100.0%



問3 茅ヶ崎市との関係 【「その他」と回答した方の内容】

- ・ 実家
- ・ 精神障害者
- ・ 在住、在勤
- ・ 茅ヶ崎市出身で現在他自治体に在住・在学
- ・ 発達障害がの子供がいます
- ・ ボランティア

問5-1 接したことがある障がいのある人（1年以内） 【「その他」と回答した方の内容】

- ・ 職場
- ・ 障害当事者
- ・ 息子が通っている児童発達支援センターで
- ・ デイケア
- ・ 職場を利用する方
- ・ 看護師として、患者さまと
- ・ 仕事
- ・ 障害者ヘルパーとして働いている
- ・ 勤務先の園児
- ・ 手話講座の講師
- ・ 仕事で児童発達支援・放課後等デイサービスで働いているため。
- ・ 団体のメンバー
- ・ 介護ヘルパーの仕事です。
- ・ 放課後等デイサービスで勤務
- ・ 障害福祉サービス従業者
- ・ 手話教室の講師
- ・ 通所児童
- ・ 患者様
- ・ 仕事先
- ・ 職場で
- ・ サークル、障害者施設勤務
- ・ 自分自身
- ・ 学校で仕事をしているので、児童生徒
- ・ 施設利用者
- ・ 通りがかりの人

- ． お客様(3件)
- ． 子どもや障害者他、様々な居場所を開いている人たちの交流会
- ． 学校職員のため
- ． デイケアのメンバー
- ． 職場の利用者
- ． 手話教室などで知り合った人など

問6 障がいに関することを見聞きした媒体(1年以内)【「その他」と回答した方の内容】

- ． Threads
- ． ラジオ
- ． 本
- ． 自治体や福祉関係の事業者が開催するシンポジウムや啓発企画等
- ． 職場
- ． 個人ブログ
- ． ラヂオ
- ． 入居施設
- ． ネットニュース
- ． 支援学校
- ． 関連会議や、利用している事業所等より
- ． Yahooニュース等
- ． 夫が障がいがあるので夫本人から
- ． まんが
- ． 職場
- ． NHKラジオ「ひきこもりラジオ」
- ． ツイキャス
- ． 障害福祉のチラシ
- ． 仕事柄
- ． なし
- ． 湘南モールフィルの納涼夏祭り内にて
- ． 障害者施設職員のため
- ． 仕事先の研修等
- ． 仕事
- ． ネットニュース
- ． 支援学校の学園祭
- ． 小説
- ． ラジオ

問8-1 どのような場面で差別があると思うか【「その他」と回答した方の内容】

- ・ 伝統文化など その他人間が作り出したありとあらゆるもの全てにおいて
- ・ 賃貸アパートで退去を迫られ、退去した知人がいる
- ・ 人の意識
- ・ 車イスの方のタクシーの乗車拒否がありました。
- ・ 婚活で苦労しました
- ・ 地下通路のエレベーターが24時間対応ではない。障害福祉課の階に、多目的トイレがない
- ・ 障がい者同士がマウントを取って差別する
- ・ 社会全体として感じるし、日常生活の中で頻繁に起きていると感じてる
- ・ なし
- ・ 名前も知らない人達
- ・ 家電や警報など音による通知や、声かけたのに無視されたと怒るなど、差別というより聴覚障害者の存在をまったく想定していない人や場面が多いと感じる。差別以前の問題。
- ・ 子育て中の保護者の方へ 国の宝であるこどもの自由な行動が、障がいのある方の危険につながることもあることを認識してほしい。
- ・ 身近ではあまりみかけない

問11 どうすれば合理的配慮が浸透すると思うか【「その他」と回答した方の内容】

- ・ 障がいのない人、家族や知人に障がいがある人がいない人には、結局、可哀そう、自分や周りに障がいなくてよかった、としか思えないと感じる
- ・ 障害者といえども、色々な障害者がいるので、具体的にどんな支援が必要なのかのような自分のメモみたいなのは、障害者側も必要だと思いますし、色々な障害があるということも、一般の人が勉強できる機会があれば、自然と方法が増えるとは思っています。
- ・ 普段、我々が行っている行為の中に、実はそれがインクルーシブではないか、という行為等を並べて共有する事、他、障害者、外国人等他者を知る機会を作る事。
それを幼少期や学齢期等、学習機会の中に作る事。
- ・ 事業者、行政機関がさまざまな形で障がい者の声をすくいあげて、合理的配慮をしようと努力することはもちろん必要だと思う。同時に、障がい者の側も、合理的配慮を求めることが理不尽な要求ではないという意識に変わってゆく必要があると感じます。そのための障がい者への啓発も必要だと思います。
- ・ 宣伝媒体や行政の対応も必要で有効だと思うが、障害によって当事者個々によって必要な配慮は違うと思うので、当事者が所属する場から理解を広げていくことでその方に合った配慮を得られるのではないかと思います。
- ・ 税金申請などの時に目にできるようにする
- ・ 法律に罰則をつける。法定雇用率を上げる。
合理的配慮を提供してもらえなかった場合に通報を受け付ける窓口を市役所に設けて、きちんと調査と指導をする。

- ・ そもそも、子どもから大人になる過程で障害者、障害児を切り離して考え過ぎ。別枠にし過ぎ。学校での学習に加えるべき。別の人間として捉え過ぎ。小さい頃から当たり前にそういう人がいると分かっているならば、考えなくても合理的配慮ができる人が増えると思う。
- ・ どうしたら良いかという対処だけでなく、障害となっている原因を考えるなど、障害理解の浸透を促す取り組みが大切だと考えます
- ・ 合理的配慮を促進するための条例を作る必要があると考えます。
- ・ 日頃から知っている人が、配慮が出来る時に配慮を見せると、広がると思う。
- ・ 当人が手伝ってほしいことを言いやすい環境づくりが必要。周りの人が気づける手段があると良いと思う。
- ・ 都度その現場で掲示するなど
- ・ 幼稚園や小中学校など公教育の現場で、生きづらさ(何らかの診断がつきにくい困り感にも)への配慮や寄り添う空気づくりが必要。幼児期・学童期から、違いを認め合える環境が当たり前にあることを目指す施策を。
- ・ 特別な配慮をする必要がないとは思わないが、強制する必要も無いと思う。出来る範囲で構わないことも含めて宣伝媒体を利用した周知を行うのがよいと思う。
- ・ 障害のある人と、共に学び、仕事をし、生活をする
- ・ 小学校低学年もしくは幼稚園児の頃から、障害のある人となない人、それに加えてその保護者達が一緒に過ごすという経験を、何度も積み重ねることで皆んなが「障害」について理解していくのがいいと思う。(子供にその親が偏見を植え付けることがあるので、両者に正しく理解して貰う必要があると感じる)
- ・ 全ての人の考え方を変えない限りなにをやっても合理的配慮は実践できません
様々な研修を受けているのは一部の人だけです
関わっていない人は合理的配慮という言葉すら知りません
- ・ 発達障害のグールホームが茅ヶ崎市内があれば
- ・ ドラマや漫画などの中で当たり前にその場面を描く
- ・ 浸透は無理だと思っている
先生でも知らない人は多い。支援級の先生ですらトンチンカンな事ばかり言ってる人もいる。
- ・ 多様な障がいを持っている人たちと平場で対話や、共に活動する場を持つ
- ・ わからない
- ・ 障害者サポートも介護も共に、小学校の頃から必須科目とし、各個人が当たり前の知識として習得することがスタート地点かと思う。差別以前に適切なサポート方法がわからないから避けてしまうケースも多いと感じる。
- ・ 手話通訳をお願い出来る条件や範囲を、もっと広げていく。
- ・ 継続した問Ⅱの様な活動と啓蒙
ひとつでは無いと思う
- ・ 町田市に住む知人から、数年前に合理的配慮に関する条例ができたことで、以前と比べて多くの問題が解決したと聞いた。調べたところ茅ヶ崎にはそういった条例がないので、同じように茅ヶ崎市独自の条例を作ることで、合理的配慮の意識が広まっていくと思う。行政側が率先して動くべきでは？
- ・ 合理的配慮の前に行政が(特に神奈川県や茅ヶ崎市)が障害者があらゆる場面で社会参加をする環境整備ができていないので、環境整備、合理的配慮の両面で模範を示す姿を見せる

- ・ 子どもの時に親や幼稚園からの教育。
差別を無くしたり、思いやりを持つ心を小さい時から育ててもらふ。親が差別の考えを子どもに教えないように親子で参加するワークショップ、幼稚園や学校で行う。
- ・ そもそも合理的配慮を義務教育でやってないから浸透していないのでは。なぜ障害者に対して配慮する必要があるのか、人権問題にも関わる問題だけど、そういった教育は大学でしかやった記憶がないし、福祉系の選択授業だった。
- ・ :法律や条例で決める
:大手企業が率先して配慮する
:若者がよく見聞きする媒体をつかい浸透させる
- ・ 宣伝媒体を使用した周知の他に、幼児教育の頃からの保護者も含めた周知と、民間事業者等全ての
人への周知の徹底。
- ・ 予算的制約がある事業者、施設運用者への費用補助金(コストが配慮解消を妨げる最大の理由とな
ることが多いので)
- ・ 障害のある人を分断して関わらないようにするのではなく、小さな頃から関わりを持つ。当たり前の環
境を作らないと接し方がわからないから難しいと思う。
- ・ テレビやラジオのCM等も1つの方法ではあるが、まずは自分が住んでいる街、市民レベルの周知から
だと思う。例えば、条例等を作成して周知することにより、浸透していくのではないかな。
- ・ 1,2両方大変意義のあるものと感じます。3も大切な考えだと思います。とともに浸透するには個人同
士、更にコミュニティへと様々なアプローチと相互理解が必要なのではないかと考えます。
- ・ 配慮する内容を具体的に示す

問12 障がいのある方と一緒に働くことをどう思うか【「その他」と回答した方の内容】

- ・ まずは障害がある方が働けるハード面とソフト面の環境を整えること、あわせてどんな障害があっても
働ける社会的環境を整えることが重要だと考えます。(例えばヘルパーとともに働く環境を整える)
- ・ 嬉しいと思います。ぜひ一緒に働きたいと思います。ただ、配慮も必要だと思いますので、その辺りを共
有できるといいですね。
- ・ 自分の稼ぎを増やせというなら、稼げるだけの能力を身につけるだけの指導をすることが必要。その指
導に対しては、昭和な育て方ではなく、向き合う指導が必要。さまざまな雇用者が向き合うことができ
ているか。
- ・ ダイバーシティやインクルーシブの考え方からは、同じ職場かつ適正のある仕事で共に働くというのが
あるべき姿だしそれを目指したいと個人的には思うが、現状は障がいがある人、ない人両方が働きに
くい環境であると思う。もっと事例や考え方の浸透が必要。
- ・ 得意なことや特性を活かした仕事ができるたらよいと思う
- ・ 当事者へのアプローチが様々になります。そのための支援者フォローの難しさも同様です。色んな準備
が整わなければ、共倒れする可能性もあるため、ゆとりある支援体制に向けた法整備が大切だと思い
ます
- ・ 制度を作った国や行政側の支援制度が足りていない。会社ではどうしても何かあってもフォローしや
すい単純業務になるが、そのような業務は小さい会社では少ないしご本人の性格に合わない事もあ
る。雇用数を数値で民間に設定する前に、国や行政においても雇用枠を持ってほしいと感じている。

- ・ 障害ある、無しは特に考えていない。出来る範囲の中で必要とすることがあれば配慮していく。過度に意識はしない。お互いに補っていきたい。
- ・ なし
- ・ 障害にもいろいろあるので その人の病気、苦手な事得意な事をまず周りが理解する、その間を取り持つ人もいたらいて働きやすい環境を整えてあげて欲しい。
- ・ 本人が希望するなら当然のこと。当事者とまわりの人がコミュニケーションを取り、お互いのことを理解し、必要なサポートや環境整備をする。
- ・ 障がいにある方が問題なく働けているのかが気になる。視力の弱い人がメガネが必要とか、背の低い人には踏み台が必要とか、どんな障がいもそれを補うことが出来ていることが当たり前と考えている。
- ・ ある部署で雇用できる職員数には定員があり、障害者がそのポストのひとつまたは複数を占めると、どうしてもこなせる仕事の量や範囲が減ってしまう。その分を代替する追加の職員を補充する予算は用意されていないことが多いので、実質的に、達成しなくてはならない職務の量に比べて職員の数が必要なくなり、部署の業務が滞る、もしくは残りの職員の負担が過重になる。すべての職場でこういうことが起きているので、代替職員の補充を制度化しないと抜本的な解決はできない。私の部署も、フルタイムの職員が障害があってもほとんど仕事ができず、それを身分が不安定な非正規職員が過剰労働でカバーする形になっており、問題が大きい。
- ・ 障害者の働き方改革してほしいです
- ・ 障害のある方の過ごしやすい職場作り
- ・ 自分がどの様に接すればお互いに良いのか知った上で一緒に働きたい

問13-1 ヘルプマーク着用者への声掛け、手助け【「したことがある」と回答した方の内容】

- ・ 席を譲ったり何か手伝えることがあるかを確認した。
- ・ 立ち止まっている時に、声をかけた
- ・ 声かけ
- ・ 駅の改札前で、バスロータリーまでの誘導。
- ・ 席を譲った譲られた
- ・ 見やすい場所に付けるよう提案。歩行時、その方のペースを崩さないよう、歩調を合わせるなど。
- ・ 公共機関利用時、席を譲った。
- ・ 電車で席を譲った
- ・ 席を譲った
- ・ 電車の遅れが出た時に、その状況が分からない小学生がいたので声をかけて一緒に行動した。
- ・ 電車等で席を譲った
- ・ 公共機関での席の譲りなど
- ・ 電車で普通の席に私が座っていた時に、前にヘルプマークをつけた方が立たれたので、座りますか？と声をかけた。
- ・ 席を譲る、見守る
- ・ 電車で座席を譲りました。座りますか？と声掛けしたら、はい、お願いします、と言われました。
- ・ 電車での座席の提供

- ・ 歩行が悪い方に道が歩きやすい様に譲った。
視覚障害の方が、横断歩道を渡るのを怖がっていたので、一緒に渡った。
聴覚障害の方々、仲間に入らずにいたので、手話で話したり、自分の出来る範囲で通訳した。
- ・ 公共交通機関で席をゆずる。
- ・ 医療関係の仕事なので、移動時や行動開始時に声かけしました
- ・ 道端でしゃがみ込んでいた
具合がわるそうだった
- ・ 席を譲る
- ・ 駅で具合が悪くなった方の対応
- ・ 自分自身が装着していて声をかけていただいた
- ・ 荷物持ちましょうか？
- ・ 車椅子を押すなど
- ・ 困っていた様子だったので、声をかけている
- ・ 電車やバスで席を譲る
- ・ 目が不自由の方が乗り換え口が分からず。
声がけをし乗り口まで案内した。
- ・ 通勤電車で席を譲った
- ・ 公共交通機関で席を譲ったりエレベーターまで案内や付き添い等をした
- ・ 目の不自由な方をエスカレーターで駅改札までサポート
- ・ 学校やスーパーに寄付した
- ・ 交通機関での声掛けや席を譲るなど
- ・ 声かけしたが、大丈夫です。と言われた。
- ・ 気づいた上でそっとしている
- ・ 電車の席を譲った
- ・ 主に接客の時に、荷物運びや商品の案内。
- ・ 電車での座席を譲った
- ・ 車椅子補助、歩行補助したことがある
断られたこともある
- ・ 車椅子を押す
一緒に目的地近くまで行く
- ・ 以前都内在住の時に視覚障がい者のガイドヘルパーを10年間していました。茅ヶ崎に越して来てからは知的障がい者の移動支援を5年間しています。
障がいのある方はいつも身近にいます。
- ・ 家族が持っていた。電車で席を譲る。
- ・ バスの中で義足の方に席を譲った
- ・ 声掛け
手助け
- ・ 道の横断の際信号がなく、車を止めて一緒に横断した
- ・ 視覚障害の方の誘導
- ・ 声かけ、席譲り

- ・ 危険な場面を見かけたので視覚障害者の方の手引きをした。
荷物を持つのが大変そうだったので手伝った。
- ・ 駅で視覚障がいのある方が人が多くて迷っていて落ちそうだったので声掛けをして誘導した。
- ・ 電車で席を譲りました
- ・ ヘルプマークが必要な方に利用するようにお伝えした
- ・ 出来る範囲でその方から目を離さず、その方が戸惑っている様子があると思ったので手助けが必要か声をかけた。道に迷っておられたので道案内をした。など。
- ・ 街頭で支援が必要かどうかをお聞きする。障害がある方の移動を手助けする。例えば、視力に障害がある方を誘導する、車椅子を押すなど。
- ・ 『バス停での出来事』ヘルプマークをカバンにさげている方がいらして何かそわそわ落ち着いてられない様子でしたので（何かお困りのことがありますか?）とお声をお掛けいたしました。
カーディガンのボタンを掛けて欲しい仕草がありましたので（お手伝いしますね.）とお声掛けしてカーディガンのボタン掛けの介助をさせていただきました。
- ・ 特別支援学校従事者であるため
- ・ 特に特別なことではないと思う。こういうことを聞くこと自体がおかしいのでは？
- ・ 電車に乗っている時に席を譲ったり、クライアントには体調を確認する言葉かけをするなど。
- ・ 目の不自由な方がバスを降りるとき少し介助、電車に乗るのを誘導
- ・ 車イスの補助
- ・ 声かけ、移動中のサポート（視覚障害者のホームでの移動）
- ・ 電車で席を譲ってもらうときマークを付けた人がいる時は声掛けをしている
- ・ 白杖を両手で抱えている方に声掛けして近くまで案内した
- ・ お話し相手、席を譲る
- ・ 子ども会、学校等で役員としてやったことがある

問13-2 手助け、声掛けしにくい理由【「その他」と回答した方の内容】

- ・ ヘルプマークをつけている人が多くてどのような障害や困り事があるのか分からないから
- ・ 特に困っている様子の方に会ったことがありません。困っている様子でヘルプマークをつけていれば声をおかけしたとは思いますが。何も無いのに声をおかけするのもおかしいかなと思います。
- ・ その方が手助けを必要としているのかが分からないから。
- ・ その方が手助けを必要としているのかが分からないから。
- ・ ヘルプマークは一つの目安になりますが、困っている様子の方がいればマークのあるなしに関わらず声をかけます。
- ・ 助けを求められた時には手助けするが、まだその機会がない
- ・ 困っている様子がなかったので声かけしてないだけ
- ・ ヘルプマークをつけている人に出会った事がない
- ・ つけている人を見かけただけで、助けが必要な状態では無かったから。
- ・ ヘルプマークをつけている方にお会いしたことがないと思う
- ・ 困っていそうなら声をかけようと様子を見ていたが、特に困っていなさそうに見えたので手助けする機会が無かっただけです。

- ・ 手助けが必要と思われる場面に遭遇していない
- ・ 手助けをしたくないわけではなく今のところヘルプマークを付けている方に出会ったことがありません
- ・ 見たことがない
- ・ 外ではそういう機会がなかった。
施設を利用しているヘルプマークを付けている子供達にはいつも対応しているが。
- ・ すれ違う位で、その場で対応する状況にならなかった
- ・ そのような場面に出会したことがない
- ・ 困っている様子に遭遇したことはない。(ヘルプマークをカバンにつけている方と、普通に道ですれ違うなど。) 困った様子や助けが必要そうな様子などに気付いた時には、少しでも助けになりたいと思っている。
- ・ ヘルプマークを付けた方々をお見かけした事があっても既に何らかの対応済みで、手助けや声掛けには至らなかった。同時に、ヘルプマークを付けられている方は活用方法を理解されていたり、理解者が周囲におられる場合が多いのかな?とったり。ヘルプマークを知らない本人や周囲の方々は、あえて公共の場には出る事を控えている、という事もあり得ますし、ヘルプマークを付けていても強度行動障がいがある方々や、医療的ケア等重度な方々などにとってはまだまだ、壁は高い部分も多いのではないかと思います。
- ・ どう対応したら良いのか分からない方は、沢山いると思う。
- ・ 声をかける必要性な場面ではなかった。
困っていればお手伝いはする。
ヘルプマークがあれば、全てに声掛けするのでしょうか?
支援が必要なんだという認識はもちろんあります。
しかし、それをつけているだけで、何が1番必要なことかはわかりません。
- ・ 特に困っている人を見かけたことがない
- ・ 助けを求められれば、手助けするが立ち会ったことがない
- ・ 手伝う必要がある方ではなかったから
- ・ 出会った事がないから。
- ・ 白杖の方には手助けをしたことがあるが、現在のところ、ヘルプマークの方へ支援の必要な場面に遭遇したことがない
- ・ 知っているが、ヘルプマークの人に出会ったことがない。
- ・ 頼まれてもないのにこちらから言いにくい
- ・ 困っていなかったから
- ・ ヘルプマークを持っている方が、ヘルプを求めている場面に出会った事が無いから。しかし、私の父や友人はヘルプマークを持っている。一緒に行動の時は、常にどのようなヘルプが必要か、確認しながら行動を共にしている。
- ・ 助けを必要としていなそうだったから
- ・ 見かけた方は手助けが必要そうに見えなかったから。
- ・ その状況にあたる事が無いのですがそういう状況にあった場合は手助け出来たら良いとは思っている
- ・ ヘルプマークをつけている人が困ってる場面に出くわしたことがないから。
- ・ あまり困っている場面をみたことがない
- ・ 困っている方に出会ったことがないため

- ・ お手伝いする事が見つからなかった
- ・ その場で支援が必要そうではなかったのに、見守ることにしたから。
- ・ 困っている現場に立ち会ったことがない
- ・ 遭遇したことがない。
- ・ 特に何かが起きたわけではないので、そっとしている
- ・ その時に困った様子がなかったので声はかけなかった。
- ・ 困っている場面に遭遇したことがない。
- ・ 困っている状況に出会わない
- ・ つけている人に何かを頼まれたらもちろんできる事はしますが、何も言われていなければ困っていない限りは普通にしたい。
- ・ ヘルプマークより、見た目の様子で判断して手助けしている。
つり革や手すりにつかまってもフラついたり、前屈みになっている、杖をついている、まっすぐ歩けていない、など。危険と思えば声かけや手助けをする。危険性がないのに、あまり手助けをしすぎるのもむしろ差別のように感じる。
- ・ まだ見かけたことがない
- ・ ヘルプマークを遭遇した事がない
- ・ 実際に支援を必要と感じる場面ではないから。例えば、ヘルプマークを持った人が電車やバスで立っていたら席を譲るが、そのような場面がない。また、不自由にされてる人を見かけたら、ヘルプマークの有無に関係なく支援しています。ヘルプマークを持っていてもその場で困ってそうでないのに、わざわざ声を掛けることは、こちらにもリスクがあると考えます。
- ・ まだ、ヘルプマークをつけている方で、ヘルプが必要そうな場面にあったことがないので、特にお声がけしたことはありません。
- ・ まだヘルプマークをつけている方に会ったことがないので
- ・ 障害者当事者だから
- ・ ヘルプマークを付けてる方になかなか出会わない。
- ・ いつでも手助けする用意はあるが、ヘルプマークをつけている人が困っている現場に出会ったことがまだない。
- ・ 自分ごとにならないから、見て見ぬふりをする人が多いんだと思う。もっと小さな頃から接することに慣れていればこんな法律自体が不要になるのではないのでしょうか？
- ・ ヘルプマークを付けているが、困っていたり、何か助けを必要としている様子を見たことがないので
- ・ 自分自身が最近ヘルプマークをつけるようになりました。自分の中で大変勇気のいることでしたが、つけることによってまず自分が楽になりました。ヘルプマークをつけていなくても助けられていると感じていますが、つけることで特に交通機関で助けていただくことがあります。見える形で助けてもらうことはとてもありがたいことだと身に染みしています。
- ・ 困っているのかがわからない
- ・ 声掛けが必要だと感じた状況にまだ遭遇していない
- ・ ヘルプマークをつけた人から援助を求められたことがないから
- ・ ヘルプマークを付けている人を見たことはあるが、特に支援が必要とは思わなかったため

問16 虐待を確認した際に市虐待防止センターへ通報するか【「その他」と回答した方の内容】

- ・ 判断は非常に難しいですが、あきらかな暴力があればすぐに連絡したいです。
- ・ 関わることで、不利益を被る恐れがあるから
- ・ 通報者が守られるとは限らないので、通報できるかどうか分からない
- ・ 子どもの虐待は仕事上、深い検討が必要なので安易にしないが、障害者に関してはすると思う
- ・ 通報する前に話し合ったり考えたりする機会を作る。当事者の気持ちをきちんと整理する。
- ・ わからない
- ・ かつて介護をしていた知人か、毎回大きな声で親とけんかしていたため、近所の人に通報され、それをきっかけに心を病んだ。ケンカはその親子には必要なコミュニケーションだった。その家庭の事情を知らない限り、通報は難しいと感じる。
- ・ 判断が難しく通報できない
(しないというより できない)
- ・ すぐに通報せず、まずは民生委員や社協に拘わっている方がいるかもしれないので相談する
- ・ 日常的な虐待か、しつけか、一時的な喧嘩なのか、十分判断して、必要と思えば通報します。
- ・ 今までその場に接した経験がないので

問17 ともに生きる社会を実現するために必要なこと【「その他」と回答した方の内容】

- ・ 障害ということを、皆様にもっと知ってほしいと思います。怖いものとか、関わりたくないとか、誤った認識を持たないような教育を入れてほしいです。
- ・ 選択制のサービスは減らす。誰もが使えるサービスを増やす。
- ・ テレビ・ラジオ・新聞・ネットなどでの情報発信や、エンターテインメントに障がい者のキャラクターを積極的に登場させる
- ・ 障害のある方側からも発信力を持つこと
- ・ 色んな年代の方に勉強して頂く事が必要だと思います。特にお年寄りの方や若者に偏見が見受けられる気がします
- ・ 障害のある方に優しい街は、ご老人子供困ってる人にも優しい街になると思う。迷惑をかけないではなく、お互い様と思えるような考えが広がってほしい。
- ・ まずは自治体職員の意識改革・病気や障害に対する最新の知識を取得の上で窓口対応を。
- ・ 健常者がメインに設定されているイベントに、普通に参加する
- ・ 体も心も頭脳も含め、みんながなにかしら得意不得意があり、補い合っていると理解できるような教育が幼少期から継続的に必要。障害者を含め誰もが、守られるだけでなく、誰かを支える意識を持つと、実現しやすくなるかもしれない。聴覚障害者だった亡き父は、文書の点字化をボランティアでやっていた。誰もが等しく支えられ、ささえるというマインドをその姿から学んだ。
- ・ 基本的に健常者の多くが障がい者と距離を置いているので、根本的な意識改革が必要だと思います。今の行政の進め方では、100年経っても変わらないでしょう。障がい者に対する合理的配慮を定めた条例を通じた意識改革が、もっとも効果的だと思います。

- ・ 障がいのある人もない人も、幸せに生きる権利があることを、理解する必要かあると思います。その反面、障がい者への支援や優遇や資金投入が過ぎると、健常者からの理解が難しくなり、間違っただけの思考を持つ人も増えてくると思います。障がいの程度にもよりますが、障がい者も社会の一員として出来ることを頑張っている姿を見せて、互いに支え合っていることを理解しあうことが大切だと思います。
- ・ 障がいをもっと身近に考える。誰にでもあるコンプレックス(視力が弱いとか、背が低いとか)と思えば、相手への理解がしやすいのでは。
- ・ 車椅子の人が扉に近づいてきたら扉を開けて待ってあげる。目が不自由な人がいたら、後ろから押すのではなく自分の肘を相手の手で持ってもらいながらガイドする。というような「こういうときはこうしましょう」という定型例パターンがたくさんある。しかし、こういうのを明確にわかりやすくすべての市民に啓発する努力が少ない。だから障害者を見かけても、何をやればいいのかわからずに避けてしまう人がいつまでも減らない。
ディズニーランドがどの人にとっても心地よく感じるのは、「こういうときはこうやる」というマニュアルに従業員に徹底しているからだ。単に「障害のある人への理解」といった抽象的で意味のない内容でなく、「こういうときはこうしましょう」という具体的なマニュアルを啓発しないと、障害者の居心地は良くならない。
- ・ 市役所の清掃や、道路や公共施設の緑化や整備も、事業所に依頼して、障がいのある人たちに働く場を提供できると良い。
- ・ 大人も体験から関わり方を考え気づく必要がある。子供は大人の背中をみて育っています。障害者を見てはいけないと諭すのではなく、もっと当たり前に関わることでできる環境を作るべき
- ・ 障がいのあるなしに関わらず「出来ること」「得意」「不得意」を認め合える、上手に生かせることを知る。「出来て当たり前」の世の中の基準が、その人の出来ること得意なことに注目し、出来ないこと不得意なことは自然とサポート出来る、するのが当たり前の世の中になっていくと思う。そのためにどうしたらよいのか？人の考え方が変わる、世の中が変わる必要がある。けれどどうしたらよいかはわかりません。
- ・ 改めて自身の中で考えていきたいと機会をいただいたアンケートでした。どこかで個人のものと捉え、今のままで充分だと思っていましたがもっと自分が動くことで、もっと人と人、共に生きていき、安心して過ごして行けるのではないかと考えられるようになりました。個人が2,3人と広がって心楽に暮らせることを願ってはかりでしたが現実的にそうなるように考えていきたいです。

問18 回答のきっかけ【「その他」と回答した方の内容】

- ・ 親族に障害者がいるので、今まで様々な事を経験してきたが、茅ヶ崎は本当に障害者支援について他の市町村より遅れていると思う。
学校生活では、障害児は省かれ疎外感がある。
健常児との交流はほぼ持たせてもらえない。
学区には支援級がなく、兄弟と同じ学校に通えない。
支援学校で進路を決める1番大切な時期には、進路担当教諭の面談が一度もない。
進路を決める際の希望実習先は一度しかダメだと断られる。(校外実習をして良かったので再度次の実習をさせてあげ進路決定したかった…)
支援学校卒業後、すぐの就労は子供達には負担が大きすぎる。
就労支援B型での不適切な支援を受け、子供が引きこもり(通所拒否)になったが市として指導はできないと何も対応してもらえず。
障害者の親として、この茅ヶ崎で安心して生活を送る事ができていないのが現状。
親亡き後がとても不安です。
- ・ 手話講座で配布された

- ・ 自由意見を書くスペースがあると良いと思う。また、TwitterではなくXです。
作業所を単なる居場所にせず、経済的自立出来るような運営側の工夫が必要。
- ・ 今身近にはいないが、これからいるかもしれないし、自分自身が障害を持つことになる可能性もあるから。
- ・ 自分も老齢になればハンデを負う可能性が大いにあるため
他人事ではない
- ・ 普段関わりの無い人の意見が参考になると思ったから。
- ・ 息子が障害までは認知されない程度（生活に支障がない程度の難聴）の障がいがあった。公務員の試験の面接で聴こえにくいのもう一度お願いしますと言ったがわざと小さい声で何度も質問された。ちゃんと聞いているの？って言う言葉だけは大きい声で言われた。息子のように障害は様々です。民間に指導と書いてありましたが、上の方々にこそ徹底してください。
- ・ 回答数が多い方が役に立つと思ったから。
- ・ 茅ヶ崎市に住んで一年で、何か少しでも役に立てたらと思ったから
- ・ より良い世の中になることを望んでいるから
- ・ 職場で配布
- ・ 他県・市に比べ、神奈川県・茅ヶ崎市のあらゆる政策に障害者が参画することを想定されていないことに大変疑問を感じるから
- ・ 障害のある子達の権利を守って欲しいし、その子達を支える人達の地位や待遇を上げてほしいと思う。ハンディがある人をみんなで支える考えが浸透してほしい。いつ自分が、自分の子供がハンディを持つかわからないし。
- ・ 広報紙で見つけたから
- ・ 幼少期から茅ヶ崎在住です。この様な問題は国全体で考え動かなくてはならない事案ですがなかなか難しいのが現実です。まずは私たちが愛する茅ヶ崎市から、もっと言ったら地域からこの問題を考えて行かなくてはならないと強く思いました。
弱者イコール高齢者の考えを私たちは瞬間に考えがちですが見た目や年齢だけではなかなか分かりにくい障がいを持つ人々がいることを理解してこの茅ヶ崎市からハンディキャップをお持ちの方々が茅ヶ崎市民のひとりとして、皆と同じ様に幸せな時を刻んで貰える様な優しい茅ヶ崎市になることを望んだからです。
- ・ 市役所で待っているときに係員に依頼されたから
- ・ カフェですすめられた
- ・ 知る必要があると思ったから（何も知らないので）
- ・ 社会にとって大事な事だから
- ・ 翔の会の人と交流がある
- ・ 障がい福祉を考えることを市民の方々に知ってほしい
- ・ 点字、手話サークルに入っている。友だちが耳が聞こえなくなり障がいについて色々知るようになったので興味があった
- ・ 長くeye-mateの支援をしてきた
- ・ 勧められた
- ・ 職場に発達障害の方（30代）がいるので

問19 アンケートを知った媒体 【「その他」と回答した方の内容】

- ・ 親族がお世話になっている事業所からの案内（17件）
- ・ 市の講座を受けていてそこでチラシをもらったから（13件）
- ・ 手話サークルで教えてもらいました。（7件）
- ・ 友人、知人からの紹介（8件）
- ・ 支援学校の配布物（2件）
- ・ 所属団体やサークルからの案内（6件）
- ・ 市役所の窓口で案内があった（8件）
- ・ 市役所のカフェで案内があった（27件）
- ・ 市役所一階の壁に貼られたチラシ（3件）
- ・ 勧められて知ったが関心があった